
【導入】復活の希望は「今」を生きる力

- Iコリント 15章のクライマックス：死者の復活から、栄光のからだの約束へ。
- 復活のメッセージは、葬儀や記念礼拝のためだけのものではない。
- 今、この時を生きている私たちに、キリストの勝利がどのように関わるのかを学ぶ。

【第一部】「変えられる」という奥義 (51-56 節)

1. 「みな」変えられる (51-52 節)
 - 奥義（ミステリオン）： 隠されていたが、神によって明らかにされた真理。
 - キリスト再臨の時、死者も、その時生きている信者も、例外なく全員が変えられる。
 - 信仰の未熟さや罪に関わらず、すべてのキリスト者に与えられる「究極の変身」。
2. 「一瞬で」変えられる (52 節)
 - アトモス： まばたきよりも短い、分割不可能な一瞬。
 - 「聖化（歩みの中での成長）」の先にある「栄化（完全な姿への変化）」。
 - 自分の足りなさに落胆する必要はない。主が完全な姿へと一瞬で変えてくださる。
3. 「朽ちないものへ」変えられる (53 節)
 - 衰え、死ぬべきからだから、二度と衰えない「朽ちないからだ」へ。
 - 「必ず着る」： 願望ではなく、神の計画における絶対的な約束。
 - 別人になるのではなく、「自分自身のまま」で栄光のからだをまとう。
4. 死の勝利への宣言 (54-56 節)
 - 死、罪、律法の関係： 死の「とげ」である罪と、罪を責める律法の力が無効化される。
 - キリストの復活は、死という「症状」だけでなく、罪という「原因」も解決した。

【第二部】「感謝します」という信仰の応答（57 節）

- 逆転の「しかし」： 絶望の中に神の恵みが割り込んでくる。
- 現在進行形の勝利： ギリシャ語直訳では「勝利を与えておられる方」。
- 復活の勝利は未来の約束であると同時に、今この瞬間も私たちに与えられている。
- パウロと共に「神に感謝」と叫ぶ歩みへ。

【第三部】「だから、今日も立て」という招き（58 節）

- 堅固で動かされない： 偽りの教えや世の価値観に惑わされず、復活の信仰に踏みとどまる。
- 主のわざに励む： 「いつまでも残るもの」である「愛のわざ」に豊かにあふれる。
- 空しくない労苦： 見返りのない愛のわざも、主はすべて見ておられ、決して無駄にはならない。

【結論】最高の変身を待ち望んで

- 私たちはやがて「最高の変身」を遂げる。それは今の弱さや衰えを超えていく希望である。
- 自分の不完全さを見つめるのではなく、キリストの勝利を見つめて歩もう。
- 感謝を生き方に変え、主にある愛のわざに励む一週間を過ごそう。